

事例研究報告

特別支援学校小学部の不注意が強い
児童に色の理解や受容, 視線の移し方
を教える

児童の実態

<行動面>

- 服の前後を気にしないで適当に着てしまうことが多い。
- 移動中、周りが気になり、人や物にぶつかることがある。
- 足元を見ないで、階段を踏み外しそうになる。

<学習面>

- しなければならないことがあっても、周りが気になると注意が逸れてしまう。
- パズルや型はめは、形をみないで手探りで入れようとすることがある。
- 名詞は比較的覚えているが、抽象語を覚えることが苦手である。

アドバイザーからの助言

- 課題後や着替え後に好きな活動ができるように設定しておく。好きな絵本を一緒に見ながら、語彙を増やしていくことも有効です。
- 会話をすることが好きなので、「〇〇を取ってきて下さい」のような課題をしてみましょう。簡単な物からだんだん距離や刺激を増やしていくことが大切です。
- 動作と結びついた名詞の理解を増やし、まず受容で教えていきましょう。
- 視点の移し方の訓練をしましょう。
- 理解できている色や視野のサイズを調べ、理解できている(理解できていない)原因探しをする。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、次のような指導目標に取り組みました。

1. 赤・黄色の2色のブロックを提示し、色名を正しく言うことができる。〈色の理解〉
2. 種類が違う物を提示して、動作と名称を伝え、正しく選択することができる。〈受容〉
3. 児童の左・右・上に絵カードを置き、音声で指示された絵カードを見ることができる。〈視点の移し方〉

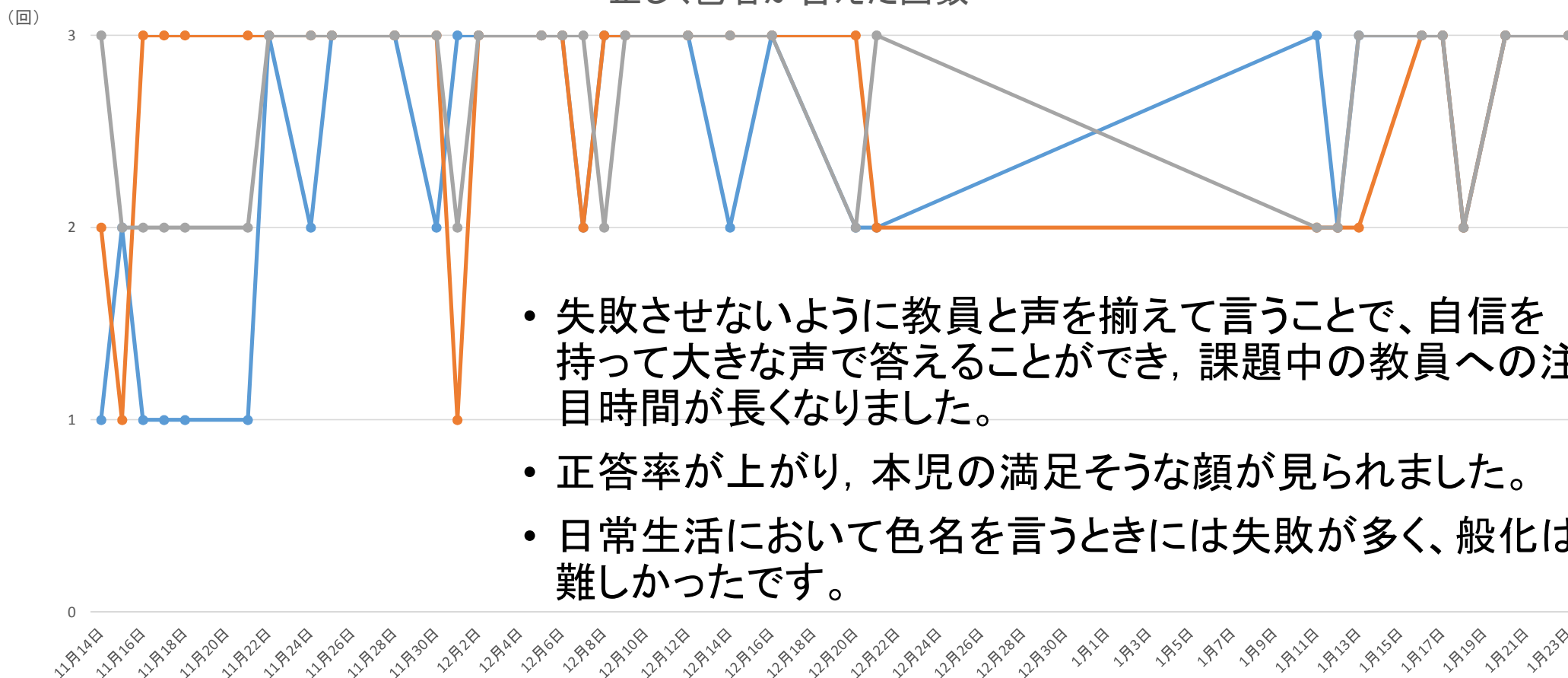
指導1: 色の名前を答える

[指導手続き]

- ① 課題前に、できたときのご褒美として教員といっしょに読みたい絵本を選ぶ。
 - ② 教員「何色ですか」 教員・児童「あかです」
児童の言葉に、教員が正解を重ねて言い、必ず正解できるようにする。3回繰り返す。
 - ③ 次は、教員「何色ですか」 教員「あ」児童「あかです」
教員は頭の文字だけを言う。3回繰り返す。
 - ④ 次は、教員「何色ですか」 児童「あかです」
教員は無言で聞く。3回繰り返す。
 - ⑤ すべてできたら、課題前に決めた絵本を1分間教員といっしょに見る。
- ・正しく「あかです」と言えたら、「すごいね」など言葉で称賛し、トークンキャップを渡す。

指導1の成果

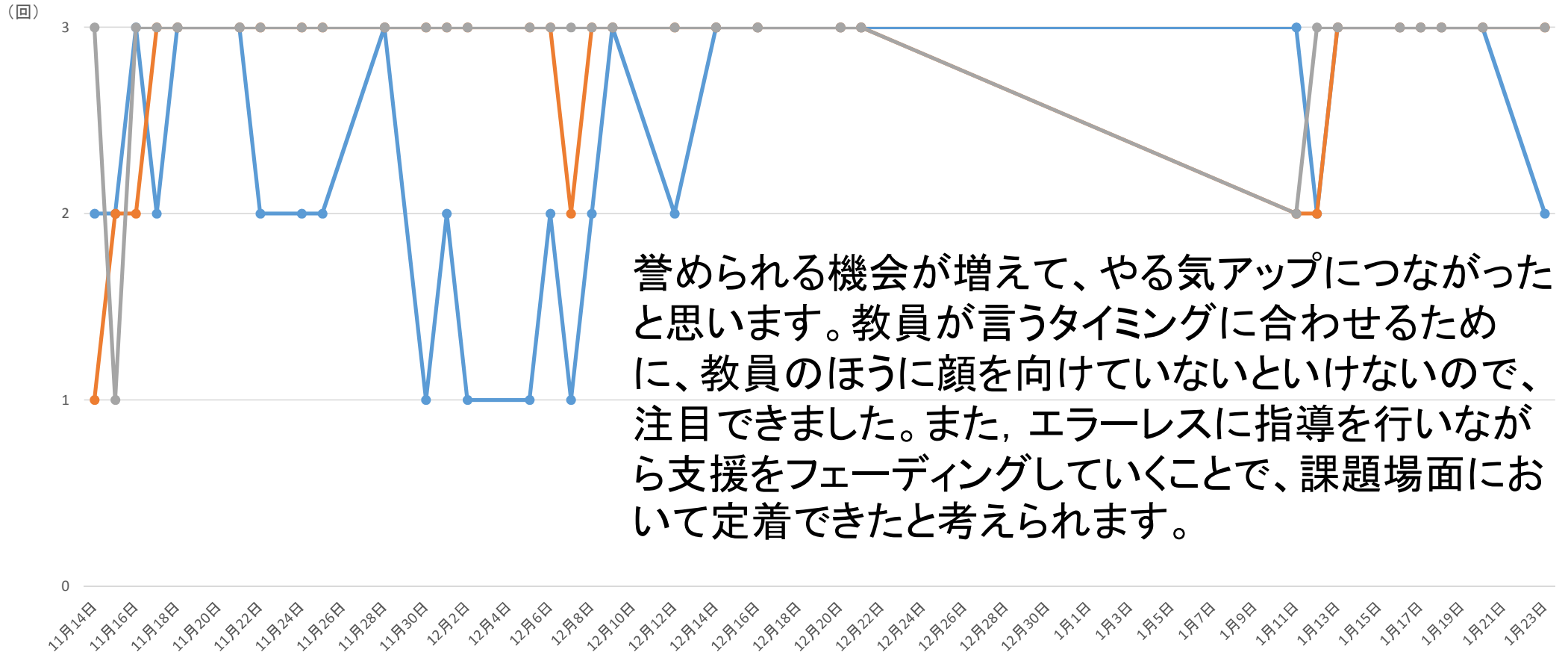
正しく色名が言えた回数



- 失敗させないように教員と声を揃えて言うことで、自信を持って大きな声で答えることができ、課題中の教員への注目時間が長くなりました。
- 正答率が上がり、本児の満足そうな顔が見られました。
- 日常生活において色名を言うときには失敗が多く、般化は難しかったです。

	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月21日	11月22日	11月24日	11月25日	11月28日	11月30日	12月1日	12月2日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月12日	12月14日	12月16日	12月20日	12月21日	12月22日	12月24日	12月26日	12月28日	12月30日	1月1日	1月3日	1月5日	1月7日	1月9日	1月11日	1月12日	1月13日	1月16日	1月17日	1月18日	1月20日	1月23日
「あか」	1	2	1	1	1	1	3	2	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	2	3	3	3	3	2	3	3	
「あ」	2	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	3	3		
無言	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	2	3	3		

正しく色名が言えた回数



誉められる機会が増えて、やる気アップにつながった
 と思います。教員が言うタイミングに合わせるため
 に、教員のほうに顔を向けていないといけな
 いので、注目できました。また、エラーレスに指導を行
 いながら支援をフェーディングしていくことで、課題場
 面において定着できたと考えられます。

	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月21日	11月22日	11月24日	11月25日	11月28日	11月30日	12月1日	12月2日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月12日	12月14日	12月16日	12月20日	12月21日	1月11日	1月12日	1月13日	1月16日	1月17日	1月18日	1月20日	1月23日
「きいろ」	2	2	3	2	3	3	2	2	2	3	1	2	1	1	2	1	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
「き」	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3
無言	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3

指導2: 動作と結びついた名詞を選択する

[指導手続き]

- ①課題前に、できたときのご褒美として教員といっしょに読みたい絵本を選ぶ。
- ②3種類のジャンルの違う物を提示し、2つは児童の知っている具体物、1つは本児の知らない具体物を用意する。
- ③開始前に1つずつ「パチンとはさむ洗濯ばさみです」などと動作と名称を言い、確認しておく。
- ④「洗濯ばさみ」「マジック」「フォーク」を提示し、「ぐるぐる書くマジックはどれ？」というように、動作と名称を言う。
- ⑤すべてできたら、課題前に決めた絵本を1分間教員といっしょに見る。

- ・正しく選択できたら「おめでとうございます」など言葉で称賛し、トークンキャップを渡す。
- ・1セッションに各具体物を3回ずつ実施する。

3回実施し、正しく選択した回数を100分率で示した。

第1課題 日付 11/21～30

選択肢: フォーク・マジック・せんたくばさみ

フォークを選択する

正答率 88.9%

第2課題 日付 12/1～8

選択肢: クリップ・フォーク・コップ

クリップを選択する

正答率 83.3%

第3課題 日付 12/9～21

選択肢: のり・テープ・スプーン

のりを選択する

正答率 100%

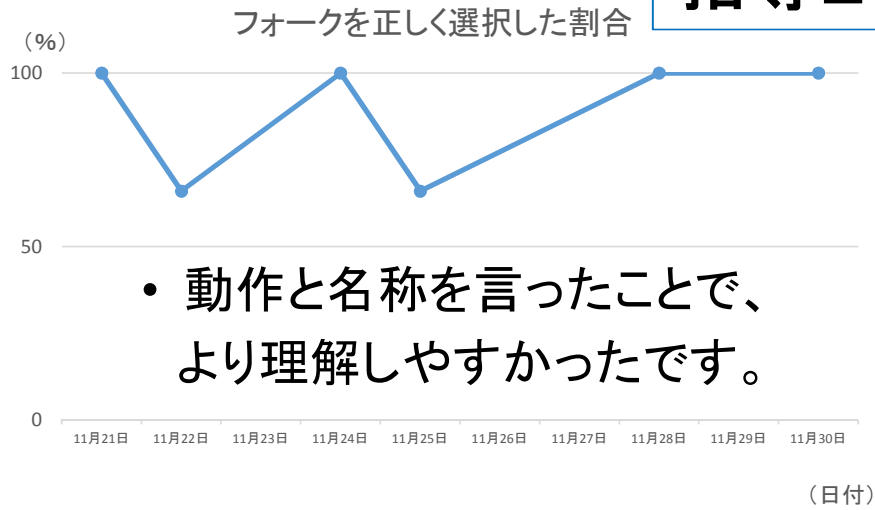
第4課題 日付 1/12～20

選択肢: えんぴつ削り・色鉛筆・のり

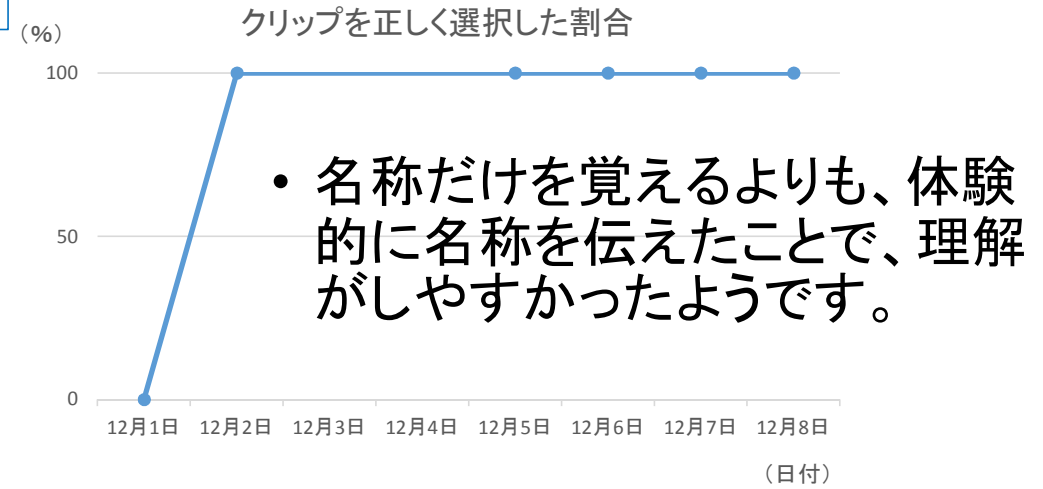
えんぴつ削りを選択する

正答率 100%

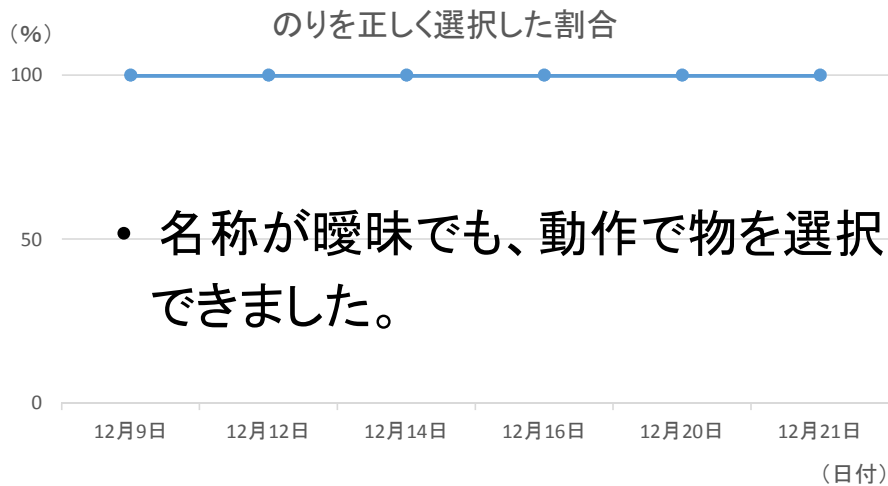
指導2の成果



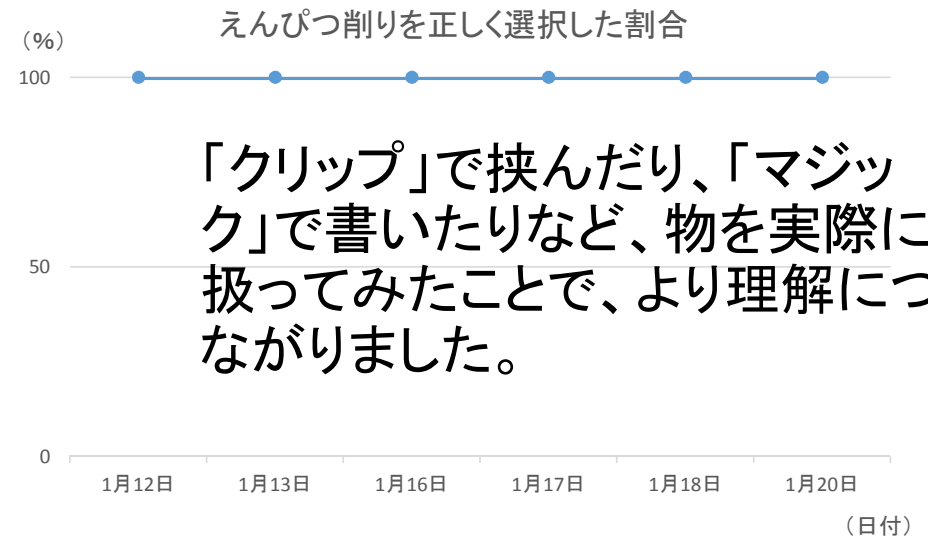
- 動作と名称を言ったことで、より理解しやすかったです。



- 名称だけを覚えるよりも、体験的に名称を伝えたことで、理解がしやすかったです。



- 名称が曖昧でも、動作で物を選択できました。



- 「クリップ」で挟んだり、「マジック」で書いたりなど、物を実際に扱ってみたことで、より理解につながりました。

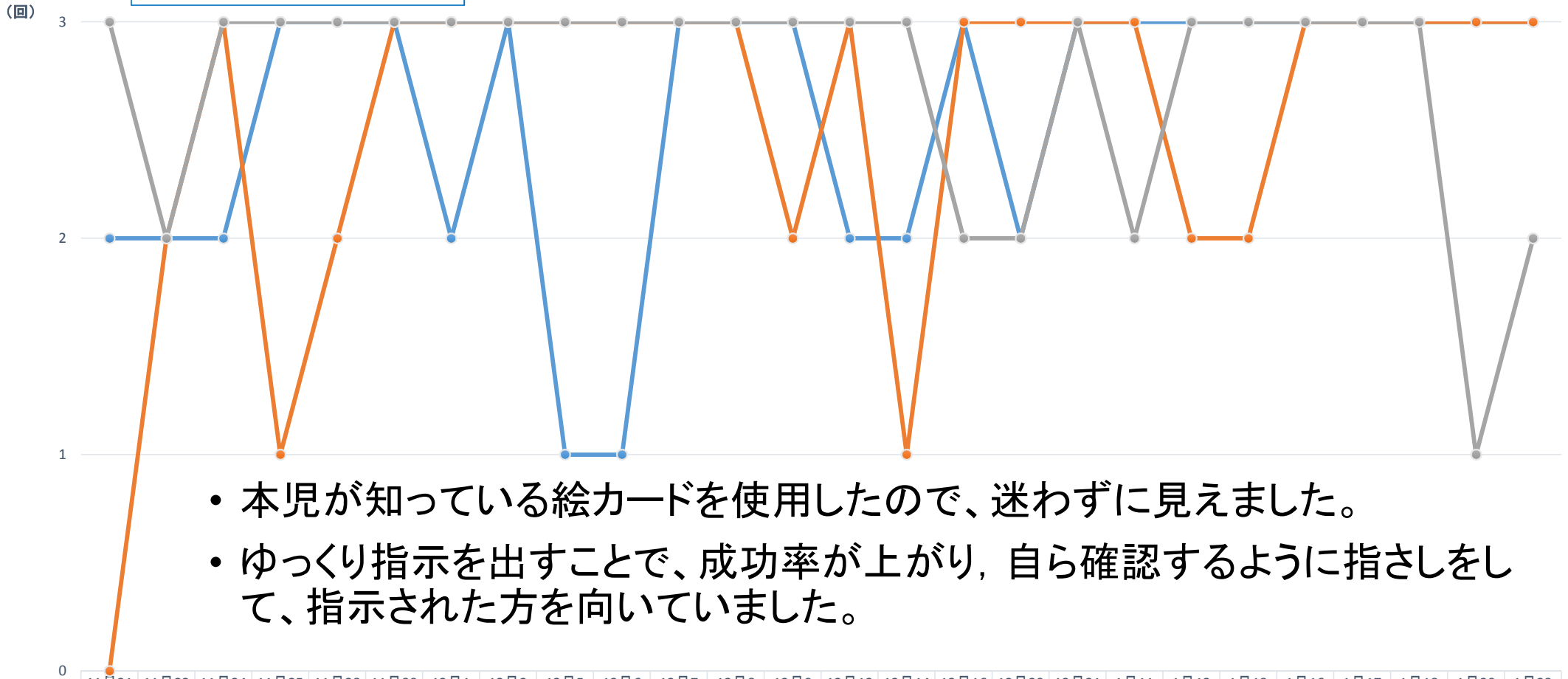
指導3: 音声で指示された絵カードを見る

[指導手続き]

- ・児童が名前を知っている絵カードを準備する。
- ①課題前に、できたときのご褒美として教員といっしょに読みたい絵本を選ぶ。
- ②児童の左・右・上に絵カードを置き、「車を見てください」「りんごをみてください」「ぞうをみてください」と言って、対象の絵カードに児童の視線を促す。
- ③すべてできたら、課題前に決めた絵本を1分間教員といっしょに見る。
- ・正しく見えたときは「いいですよ」等、言葉で称賛する。
- ・見えていないときは、もう一度「〇〇を見てください」と言って、いっしょに確認する。
- ・絵カードの位置は1セッションごとに変更する。

指導3の成果

視点の移し方の成功数



- 本児が知っている絵カードを使用したもので、迷わずに見えました。
- ゆっくり指示を出すことで、成功率が上がり、自ら確認するように指さしをして、指示された方を向いていました。

	11月21日	11月22日	11月24日	11月25日	11月28日	11月30日	12月1日	12月2日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月12日	12月14日	12月16日	12月20日	12月21日	1月11日	1月12日	1月13日	1月16日	1月17日	1月18日	1月20日	1月23日
上	2	2	2	3	3	3	2	3	1	1	3	3	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
右	0	2	3	1	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	1	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3
左	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	1	2

ここが成功のポイント



- ヒントを使って、エラーレスの指導を進め、支援を少なくしていくことができた。
- スモールステップの課題設定ができ、課題終了後の絵本が動機づけとなった。
- できることが増え、褒められることで課題にさらに集中して取り組むことができた。